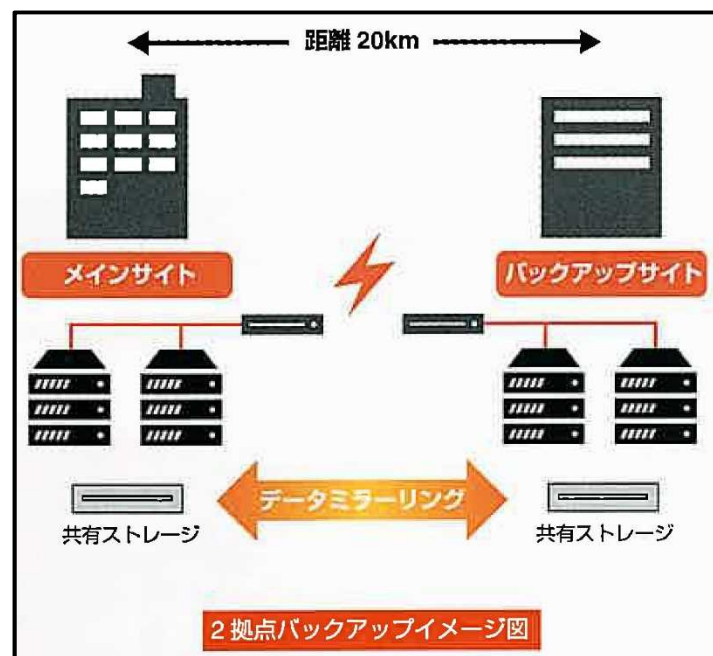


## 基本条件

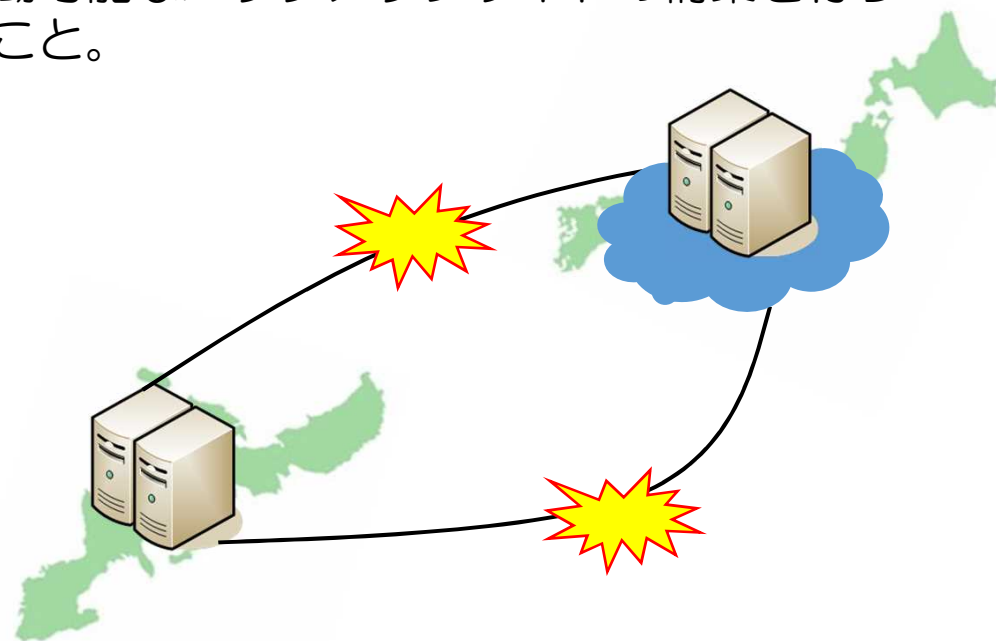
### システムの基本構成

2拠点でミラーリングを行うなど耐災害性強化すること。

現行



クラウドを使用することを否定するものではないが、クラウドを使用する際は、本県と他県との光ファイバーが切断されても稼働可能なバックアップサイトの構築を行うこと。

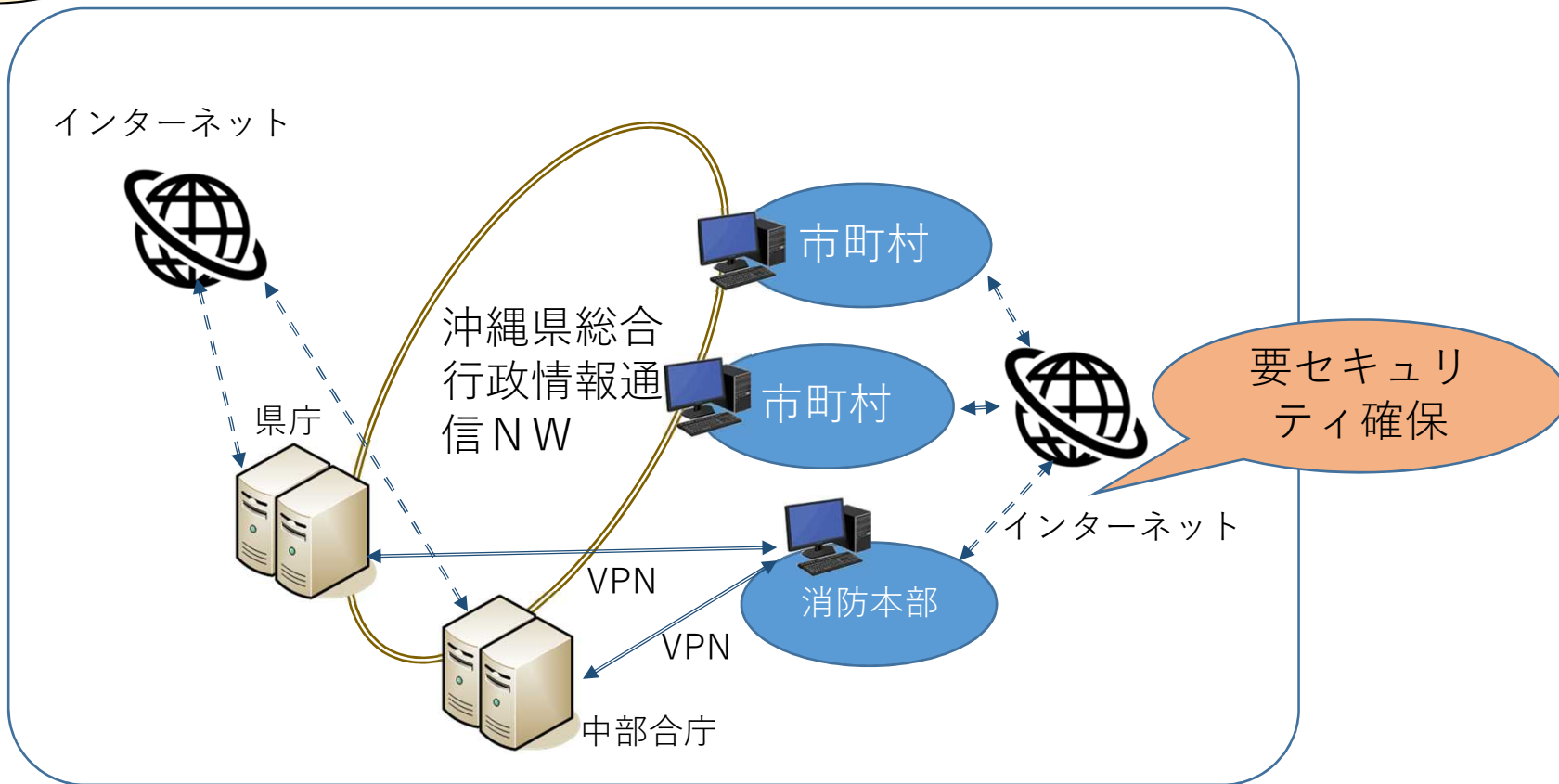


# 基本条件

## ネットワークの基本構成

県内のネットワークについても対災害障害性の確保に務めること。

現行



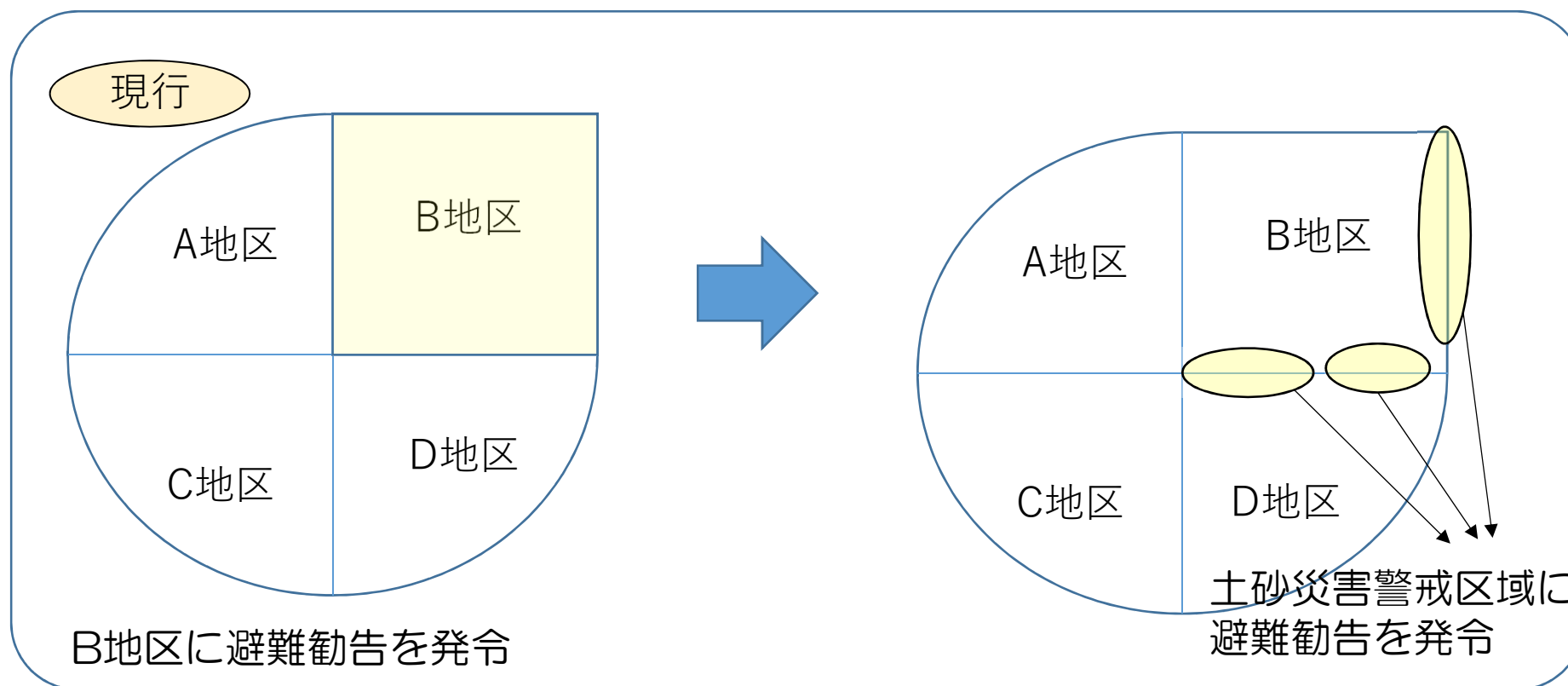
現行システムでは、市町村については、「沖縄県総合行政情報通信NW」を使用。消防本部（局）については、インターネットVPNにて接続。

## 基本条件

### 地図情報の拡充

地図情報の利用が増加しているため、地図情報の活用を行いやすくすること。

Lアラート2.0の地図利用の効果を発揮するため、  
ハザードマップごとの避難情報発令への対応

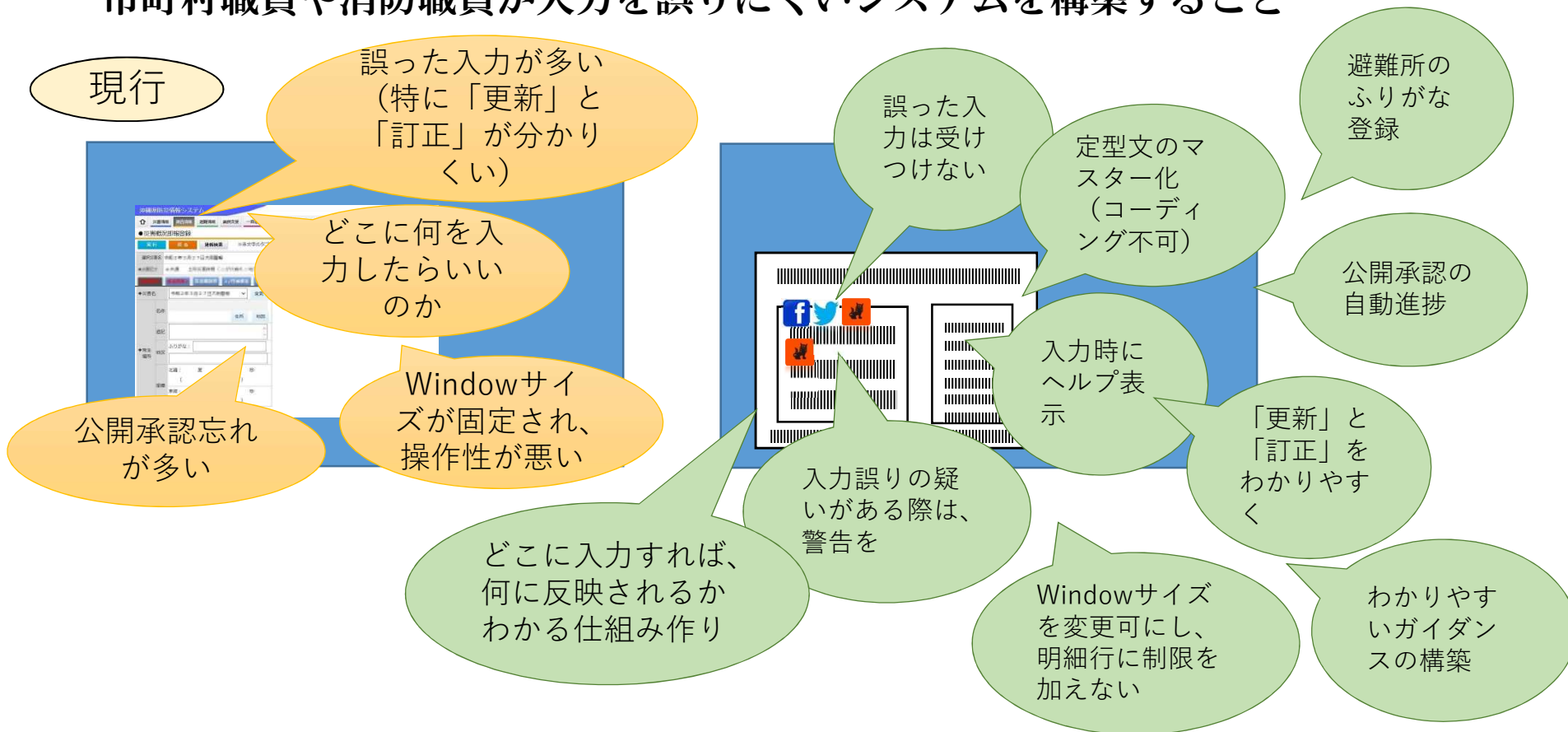


避難情報の発令区域を絞り込むことを可能に

# 基本条件

## 入力誤りの低減①

### 市町村職員や消防職員が入力を誤りにくいシステムを構築すること



異動したばかりの職員でも、すぐに入力ができ、入力誤りが発生しにくいインターフェイスの構築。

## 基本条件

### 保守体制の確保

防災情報システムは、365日24時間稼働し続けねばならない。  
想定外の事案に対応するため、駆けつけ対応が可能な状態すること。

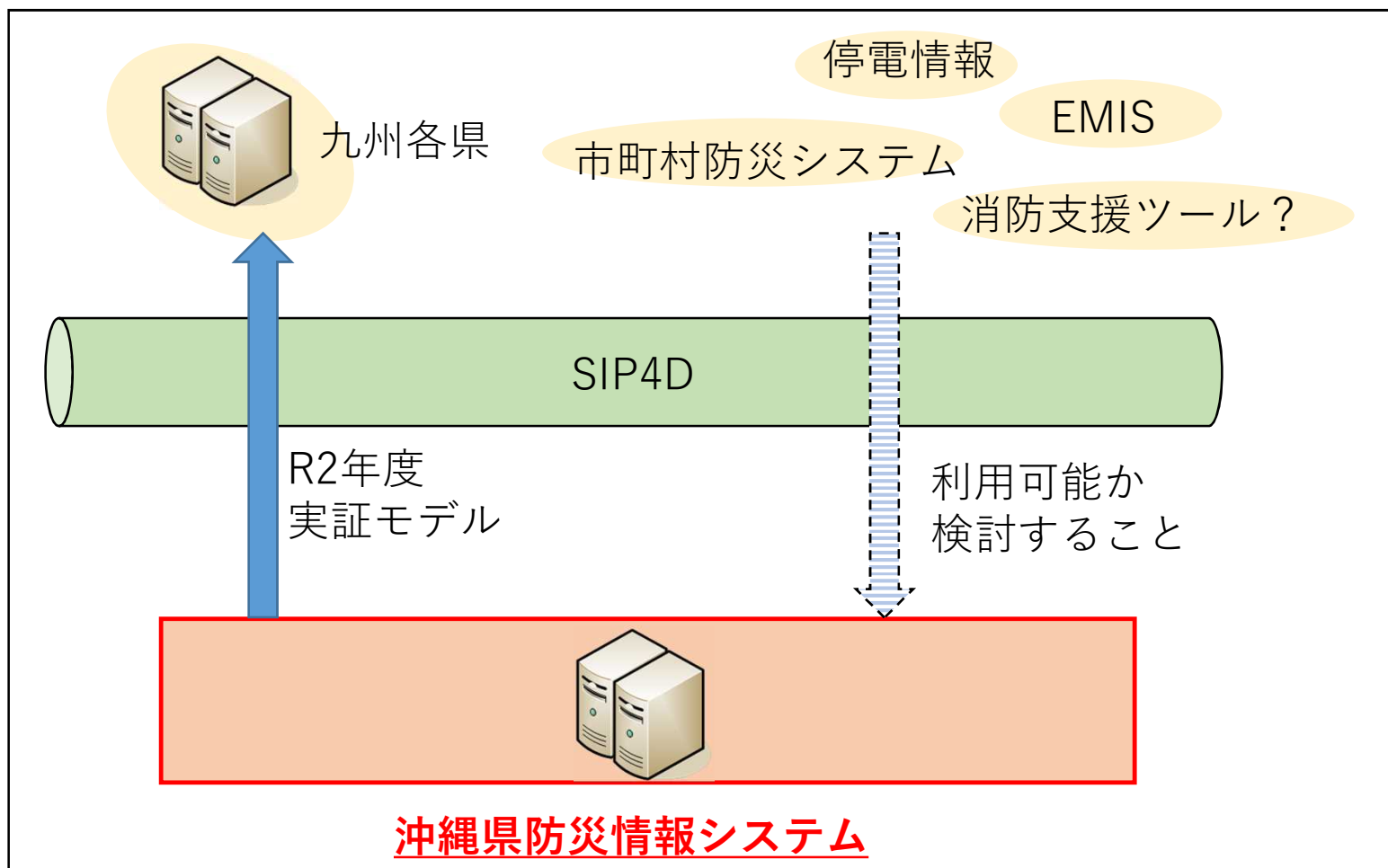
リモート保守を否定するものではないが、システムにハード的な  
問題が生じた際に、駆けつけ対応が可能なようにすること。



## 追加条件

### 他システムとの連携

SIP4Dに接続することで、他のシステムから県内の情報を受け取ることか検討すること。



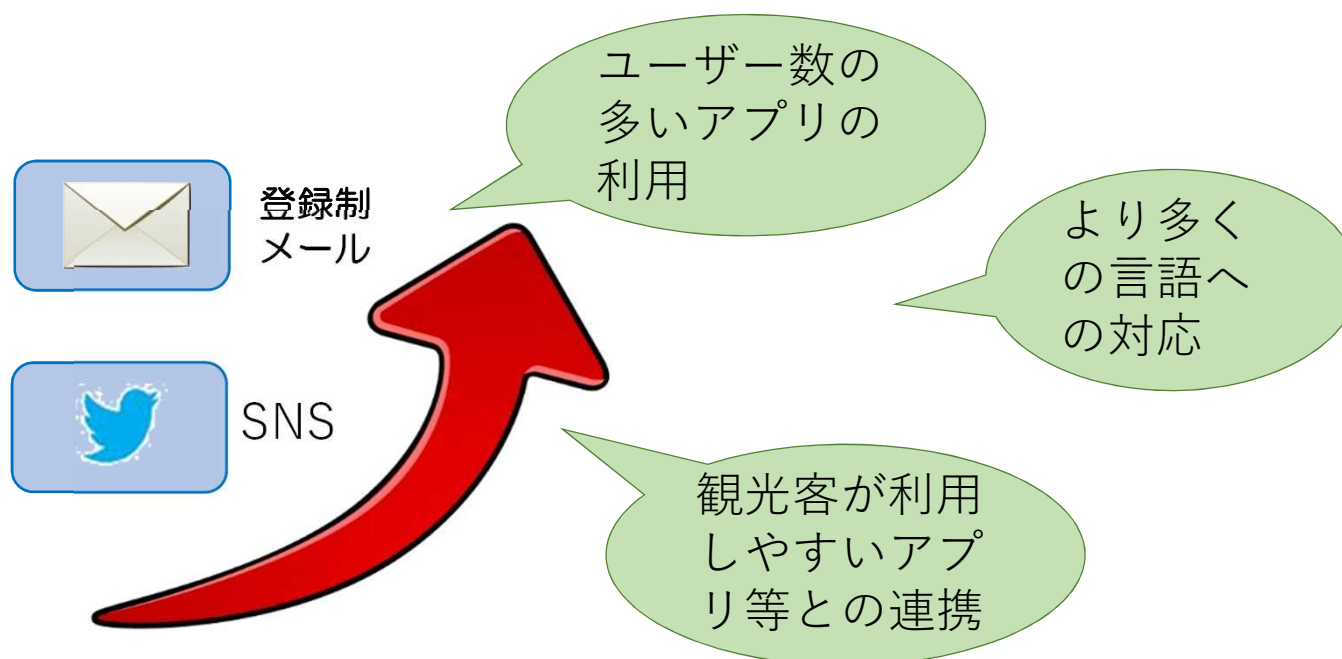
## 追加条件

伝達手段のさらなる強化

### 県民や観光客が情報を取りに行きたくなる仕組み作り

防災メールでの登録者数やTwitterのフォロワー数等を増やし、多くの人に災害情報を提供するための仕組みづくり

増加する外国人観光客や労働者に対応するため、英語、中国語、韓国語だけでなく、それ以外での言語での対応の考慮。



## 追加条件

### 既存システム等の活用

構築費用・保守費用の低減のための、既存システムの利用、連携等を十分検討すること。

「沖縄県地図情報システム」に防災関係のマップも含まれている。

防災アプリもユーザー数が多いアプリは多くある。

多言語化に特化しているアプリも多くある。

